

公益財団法人

りそなアジア・オセアニア財団

第14回（2023年度）

事業報告書

2023年4月1日から2024年3月31日まで

I. 事業概況

2023年4月1日から2024年3月31日までの当年度は、公益財団法人化後[※]実質13年目の事業年度である。（[※]2011年3月31日が公益法人移行日の為形式上14年目であり、報告書も第14回としている。）
コロナに伴う行動規制が無くなり、影響を受けていた助成事業および環境事業における活動も概ね当初設定の期間内で終わることができたため、事業はほぼ当初計画どおり進めることができた。但し、例年3月開催予定のセミナーが講師のスケジュール調整ができず次年度4月開催となった。各事業の詳細は以下のとおりである。

1. セミナー事業

経済セミナー3回、環境シンポジウム1回、合計4回のセミナーを、ハイブリッド形式（会場参加およびオンライン配信）で開催した。併せて、オンライン配信映像を財団YouTubeチャンネルにて約1年間アーカイブ配信を行っている。4回の会場合計参加者数は249名、開催後1ヶ月時点の配信視聴合計回数は1332回となった。なお、現時点における計4回分のアーカイブ配信視聴累計数は3600回を超えており、財団YouTubeチャンネル登録者数も700名に達している。各セミナーの内容は、次の通りである。

(1) 社会に必要とされる企業経営とは～ 人の幸せを求める日本企業 ～

2023年7月13日 於：ウェスティンホテル大阪2階 オリアーナ

会場出席者：53名 YouTube視聴回数：341回（1ヶ月後）^{※ライブ配信165+7-カイブ7/13～8/13}

第1部 「ダイヘンの進む方向－小林啓次郎の『志（パーパス）を受け継いで－」

講師：㈱ダイヘン 代表取締役会長 田尻 哲也氏

第2部 「五方良し経営のすすめ」

講師：人を大切に作る経営学会 会長／元法政大学大学院 教授 坂本 光司氏

パネルディスカッション

パネリスト：田尻 哲也氏、坂本 光司氏

コーディネーター：川崎 清隆氏（財団監事）

弁護士法人御堂筋法律事務所 代表社員・弁護士

(2) フィリピンの最新ビジネス事情～フィリピンとのパートナーシップの重要性～

2023年10月17日 於：ウェスティンホテル大阪2階 オリアーナ

会場出席者：52名 YouTube視聴回数：307回（1ヶ月後）^{※ライブ配信170+7-カイブ10/20～11/17}

第1部 「常石造船の海外進出－フィリピンに於ける造船事業 地域と共に－」

講師：ツネイシホールディングス㈱ 取締役会長 河野 健二氏

第2部 「最近のフィリピン情勢と日・フィリピン関係」

講師：2025年日本国際博覧会 政府代表（前駐フィリピン特命全権大使） 羽田 浩二氏

パネルディスカッション

パネリスト：河野 健二氏、羽田 浩二氏

コーディネーター：鈴木 有理佳氏 日本貿易振興機構(ジェトロ)アジア経済研究所

開発研究センター 企業・産業研究グループ長

(3) 2024年の世界・日本・関西経済を展望する

2024年1月30日 於：シティプラザ大阪2階 旬

会場出席者：96名 YouTube視聴回数：435回（1ヶ月後）※ライブ配信190+7-ライブ2/1~3/2

第1部 「日本経済の成長に向けた課題」

講師：㈱日本総合研究所 理事長 翁 百合氏

第2部 「関西経済の活性化に向けて」

講師：近畿経済産業局 局長 信谷 和重氏

フォローセッション

講演者：翁 百合氏、信谷 和重氏

ファシリテーター：鷺尾 友春氏 関西学院大学フェロー（財団理事）

(4) 第11回環境シンポジウム

幸せをデザインする：コロナ後の社会

2023年11月17日 於：ウェスティンホテル大阪4階 花梨

会場出席者：48名 YouTube視聴回数：249回（1ヶ月後）※ライブ配信70+7-ライブ11/22~12/18

基調講演 「コロナ後の社会を考える～環境福祉学の視点から～」

講師：社会福祉法人恩賜財団 済生会 理事長 炭谷 茂氏

基調講演 「コロナを超えて～いのち輝く社会へ」

講師：大学院大学至善館 教授 枝廣 淳子氏

基調講演 「A SUSTAINABLE FUTURE を実現するヤンマーのチャレンジ」

講師：ヤンマーホールディングス㈱ 取締役CSO 長田 志織氏

事業発表 「アートワークショップでフィリピンの森を守る」

発表：Cordillera Green Network アドバイザー 反町 真理子氏

パネルディスカッション

パネリスト：炭谷茂氏、枝廣淳子氏、長田志織氏、反町真理子氏

コーディネーター：阿部健一氏 総合地球環境学研究所教授（財団環境事業選考委員長）

2. 助成事業（アジア・オセアニア研究助成）

2024年度の助成プログラムとして、「調査研究助成」「国際学術交流助成」「出版助成」を2023年5月15日より7月31日まで公募し、合計173件の応募を得た。選考委員による選考の結果、計35件（継続11件含む）31,830千円の助成を理事会（1月9日）で決定した。その後、助成決定者より5名の辞退者が出たため、30件（継続10件含む）26,860千円の助成で最終確定した。助成金は3月26日に交付（交付手続未了者除く）。各助成の内容は、次の通りである。

(1) 調査研究助成

アジア・オセアニア諸国・地域に関する人文・社会科学分野（社会、文化、歴史、政治、経済等）において調査研究活動を行う若手研究者への助成。募集にあたり今期はコロナの行動制限が無くなり、113件の応募（前年比33件増）を得ることができた。

選考の結果28件21,870千円（内継続案件11件8,070千円）の助成を決定した。

3名辞退の申出があり、計25件19,300千円の助成を実施。

(2) 国際学術交流助成

我が国とアジア・オセアニア諸国との学術交流促進を目的とした人文・社会科学分野の国際シンポジウム・国際会議の開催に対する助成であり、14件（前年比9件増）の応募を受けた。選考の結果2件3,960千円の助成を決定した。

(3) 出版助成

アジア・オセアニア諸国・地域の人文・社会科学分野（社会、文化、歴史、政治、経済等）に関する研究成果を出版・広報する者への助成であり、46件（前同比4件減）の応募を受けた。選考の結果5件6,000千円の助成を決定した。

2名辞退の申出があり、計3件3,600千円の助成を実施。

3. 環境事業

アジア・オセアニア地域における自然環境保護活動への支援事業として、「2024年度りそな環境助成」を2023年5月15日より8月31日まで公募し、新規案件として12件（前同比3件増）の応募を得た。選考委員による選考の結果、新規案件4件、継続案件5件、合計9件9,000千円の助成を理事会（1月9日）で決定した。助成金は3月26日に交付。

環境事業助成者の交流会として、第6回環境ワークショップを2023年10月27日に京都府亀岡市で5年振りにリアル開催し、「これからの環境活動の方向性コロナ時代の社会変容をうけて」をテーマとしたディスカッションを行った。（助成団体12団体13名及び地元大学生が参加）

II. 庶務事項

1. 理事会

(1) 2023年度第1回理事会

開催日：2023年5月19日（於：りそな銀行 大阪本社ビル 3階会議室）

議案：1. 2022年度計算書類・事業報告の承認
2. 2023年度定時評議員会開催の承認

報告事項：1. 各事業の運営状況について
2. 代表理事・業務執行理事の職務執行状況の報告

以上、議案1及び議案2は可決承認された。

(2) 理事会みなし決議（電磁的記録による開催）

議案：理事長選任

電磁的記録による同意みなし決裁日 2023年6月13日

(3) 理事会みなし決議（電磁的記録による開催）

議案：1. 「2024年度アジア・オセアニア研究助成選考案」の承認
2. 「2024年度りそな環境助成選考案」の承認

電磁的記録による同意みなし決裁日 2024年1月9日

(4) 2023年度第2回理事会

開催日：2024年3月4日（於：りそな銀行 大阪本社ビル 3階会議室）

議案： 1. 2024年度事業計画、事業予算の承認
2. 2024年度特定資産運用方針の承認
報告事項： 1. 今年度の業務実施状況概要説明
2. 代表理事・業務執行理事の職務執行状況報告
以上、議案1及び議案2は可決承認された。

2. 評議員会

(1) 2023年度定時評議員会

開催日： 2023年6月13日（於：ウェスティンホテル大阪7階 パウリスタ）

議案： 1. 2022年度計算書類・事業報告の承認
2. 理事選任

以上、議案1及び議案2は可決承認された。

3. 選考委員会

(1) 助成事業選考委員会

① 1次選考

2023年10月2日 メール会議実施

2023年10月5日 1次選考合格案件決定

② 2次選考

2023年12月21日（於：シェラトンホテル東京地下2階 志摩）

議案： 1. 2024年度アジア・オセアニア研究助成案件選考
2. 次年度以降の助成プログラム・選考について

以上、第1号議案にて採択案が決定され、第2号議案の議論内容は次年度事業計画へ反映。

(2) 環境事業選考委員会

① 1次選考

2023年10月13日 メール（書面）会議実施

2023年10月17日 1次選考合格案件決定

② 2次選考

2023年11月10日 オンライン面談

1次合格者6名への質疑応答（各20分）及び新規案件採択協議

③ 最終選考

2023年12月7日（於：りそな銀行 大阪本社ビル 3階会議室）

議案： 1. 2024年度りそな環境助成案件選考
2. 次年度以降の助成プログラム・選考について

以上、第1号議案にて採択案が決定され、第2号議案の議論内容は次年度事業計画へ反映。

4. 評議員・役員等の異動

・ 2023年6月13日 理事長小坂肇氏の辞任に伴い、新理事長に岡橋達哉氏が就任した。

5. 登記・届出事項

(1) 登記事項

2023年6月19日 代表理事（理事長）変更登記

(2) 内閣府への届出等

2023年6月14日 事業報告等の提出

2023年6月28日 代表者交代報告の提出

2024年3月18日 2024年度事業計画書等の提出

6. その他

- ・2023年8月28日より9月1日まで、理事長と専務理事が環境助成事業視察のため、モンゴルへ出張した。（思沁夫氏の事業を視察）

以上

経済セミナー実施状況(2023年度)

		第47回	第48回	第49回			
開催日		2023年7月13日(木)	2023年10月17日(火)	2024年1月30日(火)			
時間		15:00~18:00	14:30~17:30	13:30~16:30			
場所		ウェスティンホテル大阪 2階 オリアーナ	ウェスティンホテル大阪 2階 オリアーナ	シティプラザ大阪 2階 旬の間			
テーマ		社会に必要とされる企業経営とは ～人の幸せを求める日本企業～	フィリピンの最新ビジネス事情 ～フィリピンとのパートナーシップの重要性～	2024年の世界・日本・関西経済を展望する			
基調講演 タイトル 講師		<p><第1部:講演> 「ダイヘンの進む方向-小林啓次郎の『志(パーパス)』を受け継いで-」 <講師>株式会社ダイヘン 代表取締役会長 田尻 哲也 氏</p>	<p><第1部:講演> 「常石造船の海外進出-フィリピンにおける造船事業 地域と共に-」 <講師>ツネインホールディングス株式会社 取締役会長 河野 健二 氏</p>	<p><第1部:講演> 「日本経済の成長に向けた課題」 <講師>株式会社日本総合研究所 理事長 翁 百合 氏</p>			
		<p><第2部:講演> 「五方よし経営のすすめ」 <講師>人を大切にする経営学会 会長 元法政大学大学院 教授 坂本 光司 氏</p>	<p><第2部:講演> 「最近のフィリピン情勢と日・フィリピン関係」 <講師>2025年日本国際博覧会 政府代表/ 前在フィリピン特命全権大使 羽田 浩二 氏</p>	<p><第2部:講演> 「関西経済の活性化に向けて」 <講師>経済産業省近畿経済産業局 局長 信谷 和重 氏</p>			
		<p><第3部:パネルディスカッション> パネリスト:田尻 哲也 氏、坂本 光司 氏 コーディネーター:川崎 清隆 氏 弁護士法人御堂筋法律事務所 代表社員・弁護士(財団監事)</p>	<p><第3部:パネルディスカッション> パネリスト:河野 健二 氏、羽田 浩二 氏 コーディネーター:鈴木 有理佳 氏 ジェトロ・アジア経済研究所 開発研究センター 企業・産業研究グループ長</p>	<p><第3部:フォローセッション> 講演者:翁 百合 氏、信谷 和重 氏 ファシリテーター:鷲尾 友春 氏 関西学院大学フェロー(財団理事)</p>			
申込者数		74名(会場) ※会場のみ申込受付	60名(会場) ※会場のみ申込受付	129名(会場) ※会場のみ申込受付			
出席者数		53名(会場) / 165回(Live視聴のみ)	52名(会場) / 170回(Live視聴のみ)	96名(会場) / 190回(Live視聴のみ)			
アンケート回答枚数		32名(会場) / 11名(web)	30名(会場) / 10名(web)	72名(会場) / 26名(web)			
アンケート回答者業種		会社員・団体職員	44.2%	会社員・団体職員	55.0%	会社員・団体職員	50.0%
		会社・団体役員	27.9%	会社・団体役員	20.0%	会社・団体役員	33.7%
		自営業・自由業	9.3%	自営業・自由業	12.5%	無職	6.1%
		無職	9.3%	公務員	5.0%	学校関係者	3.1%
		公務員	2.3%	無職	5.0%	自営業・自由業	2.0%
		学校関係者	2.3%	学校関係者	0.0%	公務員	2.0%
		専業主婦(夫)	0.0%	専業主婦(夫)	0.0%	専業主婦(夫)	0.0%
		学生	0.0%	学生	0.0%	学生	0.0%
		その他	4.7%	その他	2.5%	その他	3.1%
第1部 評価	印象	非常に役に立った	65.9%	非常に役に立った	38.5%	非常に役に立った	40.0%
		役に立った	34.1%	役に立った	56.4%	役に立った	54.7%
		あまり役に立たなかった	0.0%	あまり役に立たなかった	2.6%	あまり役に立たなかった	4.2%
		役に立たなかった	0.0%	役に立たなかった	2.6%	役に立たなかった	1.1%
第2部 評価	印象	非常に役に立った	51.3%	非常に役に立った	32.4%	非常に役に立った	61.1%
		役に立った	48.7%	役に立った	61.8%	役に立った	36.8%
		あまり役に立たなかった	0.0%	あまり役に立たなかった	2.9%	あまり役に立たなかった	2.1%
		役に立たなかった	0.0%	役に立たなかった	2.9%	役に立たなかった	0.0%
第3部 評価	印象	非常に役に立った	40.0%	非常に役に立った	35.7%	非常に役に立った	38.7%
		役に立った	60.0%	役に立った	60.7%	役に立った	50.7%
		あまり役に立たなかった	0.0%	あまり役に立たなかった	0.0%	あまり役に立たなかった	10.7%
		役に立たなかった	0.0%	役に立たなかった	3.6%	役に立たなかった	0.0%
本日のセミナーへ 参加しての感想	具体的感想	<ul style="list-style-type: none"> ・社員と家族を大事にしている会社は、間違い無く成長していると感じて安心した ・田尻会長の取組まれた内容に加え、お話しされるトーン、佇まいに至る全てに感動した ・人に役立つ経営が万国共通であるということは、面白い内容だった ・「みんなの幸せ」を考えさせられました。世界全体がそうなるって欲しいと感じました ・お二人の現在の信念に至った背景や熱い想いをお聴きできたことが良かった ・講演でのお話しをより深く理解することができました 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィリピン全般についての知識を深めることができ良かった ・VATの還付の問題なども解決策も含め現況を教えてくださいました ・本日のプログラムを拝聴し、フィリピンの歴史やアジア情勢を勉強しようと思いました ・企業でも公的機関でも、現地で駐在された方の話はリアリティと迫力があると思いました ・マイクの音声ももう少し大きくなってほしかったです ・講演資料が座席にあれば助かります 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの新しいデータを知ることができ、自分の認識との答え合わせができました ・今後の講師の方は、DX/GXなどの分野の方の話も聞きたい ・本当にわかりやすく失われた30年の話を教えて頂けた ・元気な老人の多い日本社会を考える事も必要ではないか ・いつもながら素晴らしい運営に感謝します。タイムリーかつ講演者の選定が良い ・新聞からは勉強できない内容で、日本の第一人者による無料セミナーで得をした気分です 			
		<ul style="list-style-type: none"> ・「海」や「船」のテーマは、日本が島国であることを再認識させられた良いものでした ・フィリピンで得られた利益を、現地フィリピンに還元する活動に大変感銘を受けた ・海外進出の苦労とフィリピンへの進出メリット(コスト面を含めて)が良く理解できた ・海外事業の成功は、地域との共生や地元への還元サイクルが重要なことが理解できた ・フィリピンで造船業を営む覚悟、地域に根ざした活動、為替リスクの話など参考になった ・女性の活用、現地への同化、地域貢献等が参考になった 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の成長に向けた課題に対する説明が具体的で、よく理解できました ・賃金上昇を含む人的資産経営が「新しい資本主義」の実現に繋がることを理解できた ・30年間不足していた人への投資が、日本経済復活に結びつくという話は理解できた ・構造的に訪れる労働力不足への対処は、女性の社会進出しかないのだろうか ・日本・ドイツというメカに強かった国が無形資産投資が少ないという事が興味深かった ・マクロ経済の説明は後半部に絞り、人への投資に焦点を当てて分かりやすい解説だった 				

第11回環境シンポジウム実施結果

<開催概要>

開催日	2023年11月17日(金)
時間	13:30~18:00
場所	ウェスティンホテル大阪 4階 花梨
テーマ	「幸せをデザインする:コロナ後の社会」
基調講演①	「コロナ後の社会を考える～環境福祉学の視点から～」 社会福祉法人恩賜財団 済生会 理事長 炭谷 茂 氏
基調講演②	「コロナを超えて～いのち輝く社会へ」 大学院大学至善館 教授 枝廣 淳子 氏
基調講演③	「A SUSTAINABLE FUTUREを実現するヤンマーのチャレンジ」 ヤンマーホールディングス株式会社 取締役CSO 長田 志織 氏
財団事業紹介	「アートワークショップでフィリピンを森を守る」 Cordillera Green Network アドバイザー 反町 真理子 氏
パネルディスカッション	パネリスト: 炭谷 茂 氏、枝廣 淳子 氏、長田 志織 氏、反町 真理子 氏 コーディネーター: 総合地球環境学研究所 教授 阿部 健一 氏(財団 環境事業選考委員長)

<アンケート結果>

出席者数	48名(会場) / 249回(web配信1か月後)		本日の環境シンポジウムへ参加しての感想	
回答枚数	24枚(現地) / 6枚(web)		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナを忘れようとしている世の中で、本テーマを掘えられたことが素晴らしいと感じた ・コロナ後の社会という、このような解のない問題をディスカッションするのは必要だと感じた ・有意義な半日を過ごすことができ、このようなシンポジウムを今後も続けてほしい ・長丁場だったが、視点を变化させた切り口が展開され、示唆に富む内容だった ・とても意義のあるシンポジウムだったと思います。ありがとうございました ・大変勉強になった。今後の考え方や自身の進路の指針ができたように感じた ・全ての講演の独立性が良く、テーマへの取れんが難しかったと思います ・大変素晴らしいシンポジウムをありがとうございました ・改めてコロナ後のことを考えるきっかけになりました ・毎回新しい知識を吸収することができ、参考になる ・いつも有益なセミナーありがとうございました ・スムーズだったと感じます ・少し終了時間が遅い ・少し時間が長い 	
回答者業種	会社員・団体職員	43.3%		
	自営業・自由業	16.7%		
	会社・団体役員	13.3%		
	その他	13.3%		
	学校関係者	10.0%		
	無職	3.3%		
	学生	0.0%		
	公務員	0.0%		
	専業主婦(夫)	0.0%		
(1)基調講演①(炭谷氏)評価			(2)基調講演②(枝廣氏)評価	
	非常に役に立った	50.0%	非常に役に立った	57.2%
	役に立った	42.9%	役に立った	35.7%
	あまり役に立たなかった	7.1%	あまり役に立たなかった	7.1%
	役に立たなかった	0.0%	役に立たなかった	0.0%
<主な具体的意見>			<主な具体的意見>	
<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い分野で研究・分析され、病院経営や個人的にも様々活動されている方で素晴らしい ・インフルエンザ時代から人の関わりで多くの事が変化し、今後もパンデミックは発生する ・「環境福祉学」分野を初めて知り興味を持った。環境と福祉が両立できていない話には意外 ・炭谷さんのような経営者が増えたいが、心の勉強をする方がとても少ないと感じます ・近年の地球環境をはじめとする感染症や福祉等の動きについての整理に役立った ・SDGsの第一番の問題と結びつくことであり、環境と福祉の大切さを考えさせられた ・福祉・医療の観点から、コロナ後のアプローチの視点の参考になった ・環境と福祉の関係をわかりやすく説明いただき参考になりました ・環境と福祉の融合は、今後の社会の方向性を示す考えと思った ・コロナ前・後の世界の動きを時系列で再確認できた ・環境/福祉 両面を取り組むことの重要性を感じた ・環境福祉学という切り口が良かった 			<ul style="list-style-type: none"> ・コロナから教えられたものの説明を調査資料をもとに解説されており考え方の幅が増えた ・ネガティブ/ケイバリティの考え方は「目からうろこ」だった ・東洋思想の話が登場したが、明治以来の日本人の価値観の転換が迫られていると感じた ・熱海での環境教育活動は、瀬戸内海の取り組みにも通じるところがあり学ぶところも多かった ・コアマモの移植、再生は成功しているのでしょうか? ・紛争・対立の起りえる今の世相を背景に、取り組むべき持続的な指針を示して貰った ・東洋思想的な観点の必要性は常々感じています。データ各種は大変参考になりました ・モヤモヤする力を感じました ・経済至上主義から「命」を大前提とする経済社会へ変わった ・着眼点がユニークなご研究でとても関心があります ・熱海移住という行動に感服しました ・利益は出さねばならないことは否定できないのでは? 	
(3)基調講演③(長田氏)評価			(4)事業発表(反町氏)評価	
	非常に役に立った	36.0%	非常に役に立った	40.0%
	役に立った	56.0%	役に立った	56.0%
	あまり役に立たなかった	8.0%	あまり役に立たなかった	4.0%
	役に立たなかった	0.0%	役に立たなかった	0.0%
<主な具体的意見>			<主な具体的意見>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ヤンマーのサステナビリティ経営を改めて知る事ができた。関西を代表する良い会社と思う ・ヤンマーの本気度を知れて勉強になった ・ヤンマーの環境問題への取り組みの詳細を理解できた。環境問題の大切さを再認識した ・ヤンマーのグリーンチャレンジの詳細が参考になった。HANASAKAの基本精神に賛同 ・山岡孫吉翁のアグリビジネスの近代化に取り組み始めた原点が知れてよかった ・企業の視点から色々冷静・客観的に話していただけて良かった ・ヤンマーの山岡創業者の考え方は、今の現代に必要なものと思える ・ヤンマーの歴史と大企業の今考えていることを知れた ・社会へ企業がどう還元するか、難しい課題である。その取り組み ・サステナブルな考え方、大変勉強になりました ・民間企業でありながらここまで考えているのか ・農業以外が大きいことに驚きました ・企業の活動として色々されていることは理解できたが、それ以上ではなかった 			<ul style="list-style-type: none"> ・アートワークショップの活動に感服。これからは自然から生み出されるアートを広めてほしい ・反町氏の活動を知ることができて良かった。感動した。財団の環境事業を知ることができた ・立教大学出身でこの分野へ進まれる方がいて驚いた。財団でサポートされていることも知れた ・斬新な切り口の活動に感銘を受け、参加してみたいと感じた ・自然の中で創るアートワークショップは素晴らしい。自然の価値を知ることの大切さがわかった ・コロナ禍やコロナ後は戦争のニュース以外国内の内向きな話が多く、大変貴重なお話でした ・大変面白く、楽しく聞かせていただいた。やはり現地に根を下ろした活動が重要と改めて感じた ・まさに一躍を照らす活動だと思います。多くの日本人がもっと世界のことを知るべき ・先住民の伝統文化を取り入れた環境問題教育(先住民自身の気づき) ・大切なものとして、1.光 2.木、花、植物 3.人間を云えるのは素晴らしい ・普段の生活では知ることのない、面白く新鮮な話でした ・「ワークショップ」という手法を用いた学習をもう少し詳しく知りたいと思った ・生まれ育った環境の違いから今の日本にピンとこない。日本の若者に理解できるのか? 	
(5)パネルディスカッション評価				
	非常に役に立った	41.2%		
	役に立った	52.9%		
	あまり役に立たなかった	5.9%		
	役に立たなかった	0.0%		
<主な具体的意見>				
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ後の格差の問題についての多面的なご意見を聞かせていただき考えさせられた ・人手不足、賃金格差の問題については、本当にそうなのかという感想をもった ・働き方改革の良い面を言われたが、報道を見る限り問題は大きくなっていて思っている ・コロナ禍による負の側面として、貧困層が増えて格差が大きくなっていくことに気づかされた ・コロナ禍対応となったDXが、新しい文化・文明につながれば良いと思う ・長田さんが今の若い世代の考え方の代弁をして下さって理解できました ・阿部先生の趣旨説明が有意義でした。先生ご自身の考えや信念を伺うことができ良かった ・週休3日制の話は興味深い。貧困格差の話はとても大事 ・経済人の二重人格の話はその通り。経済成長＝善は厳しいが、移行期で経営者には難題 ・人間の多様性を認めあう関係性になっていく過渡期(歴史)の中に入りたいことを実感しました ・多様なアプローチで、意欲的かつ持続的な環境への取組を啓発できたのではと感じた ・質疑応答の内容が面白かった ・コロナ後について理解できた 				

2024年度 アジア・オセアニア研究助成一覧表

調査研究助成

《個人研究》

研究課題	研究者	研究者所属	助成額(万円)
※オスマン帝国におけるフランススコ会の活動: クレシェヴォ修道院所蔵オスマン語文書群 (18～19世紀)の分析から	さじ なつこ 佐治 奈通子	上智大学アジア文化研究所 共同研究員 東京大学東洋文化研究所 特任研究員	100
※インドネシア農村女性の伝統的薬草療法利用と ウェルビーイングに関連する人類学的研究	すぎの よしみ 杉野 好美	京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 博士後期課程	77
※帝国日本の植民地社会事業政策 -植民地朝鮮における感化事業の運営に着目して-	のすびん 魯洙彬	東京大学大学院 総合文化研究科 博士課程	76
※「対立を避ける思考」 —インド・シッキム州における宗教的混淆の社会人類学的研究	やまぎし てつや 山岸 哲也	東京都立大学大学院 人文科学研究科 社会行動学専攻 社会人類学分野 博士後期課程	100
※カンボジアにおける中国企業の農地取得による大規模農業生産が 現地農村社会に与えたインパクトに関する調査研究	りゅう たくぶん 劉 澤文	九州大学大学院 経済学府 博士後期課程	75
※カンボジア初期上座部仏教寺院の成立 —中世カンボジアにおける「上座部仏教国」化の過程と実態—	しもだ まりこ 下田 麻里子	早稲田大学 文学研究科 博士後期課程	55
※エネルギー資源をめぐる日中間係史 —上海と漢口における石炭貿易を中心に(1840～1937)	ちよう くん 張 珺	東京大学 人文社会系研究科 博士課程	40
※メコン川流域の先史時代の農業 —考古植物学の方法—	シントン ソムマーイ SINGTHONG Sommay	熊本大学 社会文化科学教育部 博士後期課程	80
※ベトナム戦争下の北ベトナムの実態に関するメディア史的考察 —日本電波ニュース社のフィルム映像を中心に	しゅ しき 朱 子奇	東京大学大学院 学際情報学府 博士課程	39
16～17世紀対馬の外交僧による朝鮮通交システムの連続と変容	こ めいげん 願 明源	九州大学大学院 人文科学研究院 助教	51
インド算術写本の調査研究:『トリシャティー』を中心に	とくたけ たろう 徳武 太郎	京都大学大学院 文学研究科博士後期課程3年	100
マレーシアにおけるイスラームとジェンダー :イスラーム金融の事例から	きたむら ひでき 北村 秀樹	シンガポール国立大学人文社会科学部 社会学・人類学科 博士課程	99
現代インドの宗教規範に対する西洋近代科学受容に関する 人類学的探究:ジャイナ教徒の公益訴訟活動を事例に	にしざか きえ 西坂 季恵	東京大学大学院 総合文化研究科 超域文化科学専攻 文化人類学 博士後期課程1年	96
1950年代の中国共産党のチベット政策	かねまき こうた 金牧 功大	慶應義塾大学大学院 法学研究科 博士課程・同研究科(助教・有期研究奨励)	50
中国近代化のひずみ —中華人民共和国以後の文学における男子学生の表象に着目して	おがわ ちから 小川 主税	北京第二外国語学院 講師	79
近代秘密結社の変容から見た中国南西部地域社会の特質 —哥老会(カロウカイ)を研究対象として	ようかしん 楊家鑫	筑波大学大学院 人文社会科学研究科	69
タイ南部のイスラーム社会におけるロヒンギャ難民との共存のあり方	がらいていぼーんくんのあんりん PRATIPPORNKUL RUENGRIN	大阪大学大学院 国際公共政策研究科 博士後期課程3年	100
高句麗系金工品の系譜的検討から見る 古代東アジアの地域間関係の研究	ちん えいきょう 陳 永強	名古屋大学大学院人文科学研究科 博士後期課程	100
仏教とナショナリズム—20世紀ベトナムの仏教諸団体を例に—	きむ じうん 金 知雲	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程(5年一貫制)	84
戦後東アジアにおける「子ども」と環太平洋移動 —「戦災孤児」と「少年の町」に着目して	えんひばいやる のみんえろでね Enkhbayar Nomin-Erdene	筑波大学大学院 人文社会科学研究群 博士後期課程	50
オーストラリア先住民トレス海峡諸島民の 非白人祖先の系譜をめぐる人類学的研究	きむら あやね 木村 彩音	神戸大学大学院 国際文化学研究所 博士後期課程	100
日本語学習とジェンダー:韓国の女性たちを中心に	やん じんすく YANG JINSUK	大阪公立大学 准教授	25
18世紀後半から19世紀前半における アジア海上貿易の変容とアメリカ商人の参入	おおくぼ しょうへい 大久保 翔平	龍谷大学 経済学部 専任講師	100

《共同研究》

研究課題	研究者	研究者所属	助成額(万円)
※メコン川下流デルタにおける古代の環境と社会生活の復元 :ベトナム南部・オクオ文化の集落址・ニオンタン遺跡の調査	グエン・ホアン・バク・リン NGUYEN Hoang Bach Linh	金沢大学大学院 人間社会環境研究科 博士課程	85
インドネシアでのモスク建築様式の脱土着化に関する 大規模データを用いた量的検証	みずの ゆうじ 水野 祐地	JETRO アジア経済研究所地域研究センター 東南アジア16研究グループ 研究員	100

※印は継続支援案件

助成金合計
25件 1,930万円
(2024年3月助成実施)

2024年度 アジア・オセアニア研究助成一覧表

国際学術交流助成

研究課題	研究者	研究者所属	助成額(万円)
国際会議:Well-being and Social Inequality in East Asia (東アジアにおけるウェルビーイングと社会格差)	あらき さとし 荒木 啓史	香港大学 助教授	200
日本における第二次世界大戦の長期的影響に関する 学際シンポジウム2024	もり しげゆき 森 茂起	甲南大学名誉教授 甲南大学人間科学研究 客員研究員	196

助成金合計
2件 396万円
(2024年3月助成実施)

出版助成

研究課題	研究者	研究者所属	助成額(万円)
東ティモール独立後の暮らしと社会の現場から	ふくたけ しんたろう 福武 慎太郎	上智大学 総合グローバル学部 教授	120
中国共産党中央局の研究 ——中国の広域統治機構 1949-1966	こうきか 黄 喜佳	武蔵野大学 法学部 政治学科 専任講師	120
性/生をめぐる闘争 —台湾と韓国における性的マイノリティの運動と政治	ふくなが げんや 福永 玄弥	東京大学(教養学部) 准教授	120

助成金合計
3件 360万円
(2024年3月助成実施)

2024年度りそな環境助成 一覧表

活動題目（企画名）	申請者	研究者所属	助成額(万円)
※バリ島と徳之島・佐渡島の子どもたちのまなびあい ～自然と共生する持続可能な地域づくりに向けた環境学習～	やまだ りえ 山田 理恵	一般社団法人あいあいネット 理事	100
※フィリピン・ルソン島北部山岳地方における 環境教育教材としての民話絵本とラジオドラマ制作	そりまち まりこ 反町 眞理子	Cordillera Green Network Inc. Advisor	100
※ミャンマー・山岳少数民族地域における 若者発信での「分別でゴミを資源に」推進事業	しばた きょうこ 柴田 京子	特定非営利活動法人 地球市民の会 ミャンマープロジェクトマネージャー	100
※ネパールにおけるIoTセンサシステムを活用した レッサーパンダ生息地の環境保全、ならびに環境教育の推進	とみさわ かなこ 富澤 奏子	大牟田市動物園 企画広報担当	100
※フィジー野球・ソフトボール協会による植林・地域環境保全活動を 通じた環境教育と気候変動対策の推進 ～スポーツを通じた環境意識向上と人材育成の実践～	すずき かずのぶ 鈴木 和信	日本大学 国際関係学部 教授	100
インドネシア環境保護区クリンチ山のごみをコーヒー豆に変える運動 ～1KG1PACKプロジェクト～、 それに伴う周辺住民のごみ銀行推進と環境教育	やまもと ひろふみ 山本 博文	株式会社 坂ノ途中 海ノ向こうコーヒー事業部 部長	100
バングラデシュの水供給困難地域における 安全な水利用のための技術支援と環境教育	すえなが かずゆき 末永 和幸	応用地質研究会 ヒ素汚染研究グループ 代表	100
日本とベトナムの学校現場の実践的な 交流を通じた質の高い環境教育モデルの構築	あらいし しょうじ 新石 正治	特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン 事務局長	100
ネパールの洪水常襲地域における 川との共生を目指した地域づくり事業	よこた よしみ 横田 好美	特定非営利活動法人シャプラニール ＝市民による海外協力の会 事業推進グループ ネパール事業担当	100

※印は継続支援案件

助成金合計
9件 900万円
(2024年3月助成実施)

事業報告の附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項は無い。